



佐久田 エンリケ アンドレス  
アルゼンチン国 3世 (祖父が前田出身)



中村 比嘉 ディアナ エリザベツ  
ペルー国 3世 (祖父が前田出身)

# 研修での思い出を胸に 南米と浦添市の架け橋となります!

説明してくださいました。  
書道は「人」「日」「まつ」「浦添」などを習いました。簡単なように見えて、書き方はとても難しかったです。  
生け花の先生は、いつも手伝ってくださったので、やり方がちょっと分かってきました。  
茶道は、ハーモニセンターで稽古をしました。先生はとても優しく、そして我慢強く教えてくださいました。  
てだこまつりの前夜祭では、アンドレスさんと一緒に浴衣を着て、屋敷通りを歩きました。沖縄の夏はすごく暑かったので、アイスクリームを食べに行きました。紅芋のアイスが大好きです。11月からだんだん寒くなりました。この天気

は故郷のリマの天気と似ています。  
沖縄料理はとても美味しいので、いつも食へに行きました。「てびち」と「ソーキそば」と「サーターアンダギー」が大好きです。そして「トンカツ」も大好きです。  
沖縄では、いろいろなことを習って、いろいろなことができて、新しい友達もできたので、すばらしいと感じました。  
自分がウチナーンチュだと強く感じます。また、心の中には、皆さんの良い思い出がいっぱい詰まっています。この思い出を胸にペルーと浦添市との架け橋として頑張っていきます。本当にどうもありがとうございました。



6月から12月までの半年間、浦添市で研修を受けたペルー、アルゼンチン両国からの南米移住者子弟研修生の修了式および送別会が、12月2日に市役所で行われました。

南米移住者子弟研修生受入事業とは、南米に移住した浦添出身者子弟の中から優秀な人材を選抜し、県内で日本語や沖縄の文化などの研修を受けながら、沖縄に対する理解を深め、帰国後は本市と母国との架け橋として、国際親善を図ることを目的に行われています。



▲お世話になった身元保証人や研修先の先生方

た身元保証人や文化研修受入先、企業訪問受入先へ感謝状が贈られました。

研修生の二人は、茶道のお点前をしたり、三線や琉球舞踊を披露したりするとともに、書道、生け花の作品展示も行いました。親戚や講師の先生方、企業訪問受入先、友人、市関係者らが見守る中、堂々と研修の成果を披露しました。

市長からは「ペルーとアルゼンチンに帰った後も、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、浦添市との交流の架け橋となり、自分の夢に向かい、まい進してください。沖縄の地から二人の活躍を願っています」と、激励の言葉が贈られました。

それでは、沖縄で半年間を過ごした一人の思い出と感謝の気持ちを紹介します。



文化研修では、琉球舞踊と三線と書道と生け花と茶道を習いました。難しかったけど、とても面白かったです。琉舞は「ぬちばな」と「かぎやで風」を覚えていただきました。私は体がとても硬いので、上手に踊れるか心配でしたが、先生方のおかげで何とか踊れるようになりました。  
三線の先生はとても優しく教えてくださり、歌の意味も

## 中村 ディアナ

日本に来る前は、とても大変なことだと思いました。少ししか日本語が話せなかったのですが、とても心配でした。

しかし、沖縄に着いて、とてもすばらしい所だと思いました。那覇空港では親戚の方々に会い、皆さんはとても親切で優しい人たちでした。



## 佐久田 アンドレス

去年、この研修を受けることが決まった時、家族はとても喜んでいました。父母の両親は亡くなりましたから、沖縄との交流がありませんでした。

成田に着いたとき、自分が日本に居ることを「すごい」と思いました。那覇空港では親戚が迎えに来てくれました。来る前から沖縄は暑いところだと知っていました。ものすごく暑かったですね。

日本語は難しいですが、面白かったです。一生懸命頑張りました。先生方がたくさんの方を教えてくださいました。また、ほかの国の友達もできて、花火大会やスポーツ大会、朗読コンテストなど、楽しく参加できました。

アルゼンチンでは空手を習っているので、沖縄に来て空手を練習するつもりでした。7月に空手の道場へ行きました。道場の先生はすぐに練習させてくれました。できるだけ道場に通り、皆さんが空手をたくさん教えてくれたので、僕の人生においてこの経験がとても大切なものになりました。

企業訪問では、針灸院でマッサージやつぼを勉強しました。



した。先生は、スペイン語が話せたので、僕にとってはとても助かりました。

前田自治会から招待を受けて、自治会の方とたくさん交流し、また、棒術「前田の棒」を練習しました。前田自治会の方が父のいとこに会わせてくれました。アルゼンチンに移住する前の話や家族の話が聞けました。祖父の弟に会うことができ、私の家族はとても喜んでいました。

少し寂しいですが、「来た時の私」と「帰る時の私」はとても良い意味で変わりました。帰国後は研修で習ったことの勉強を続けるつもりです。そして、次の世代に沖縄文化とウチナーンチュの気持ちを伝えようと思っています。

今では、沖縄に自分の家があるような気持ちです。だから、皆さん、「行ってきます」。これまでどうもありがとうございました。

